

## ■選択肢、志向の多様化する広島の中予受験■

### ■新設校の開校、共学化で延べ志願者増も既存校は志願者減

2019年、広島の中予入試は大きな転機を迎えました。年々減少している中予受験マーケットですが、2019年春から新たな中高一貫校が3校開校します。近年レベルの上がっている広島国際学院高校の併設校として新設される広島国際学院中学校、女子校の広島修道大学附属鈴峯中予が共学化と共に校名も変更する広島修道大学ひろしま協創中予、さらに国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）を導入し、グローバルリーダーを養成することを目的とした全寮制の中高一貫校広島県立広島叡智学園中学校の3校です。

2019年度入試では、広島市の中高一貫の国立・公立・私立中学校は全15校（広大附属・市立広島・広島学院・修道・広島城北・崇徳・ND清心・広島女学院・安田女子・比治山女子・山陽女学園・広島なぎさ・AICJ・広島国際学院・ひろしま協創）が生徒募集を行いました。この15校の2019年度中予入試総募集定員は2,230名、この定員枠に対して合計7,200名が出願（AICJ中会場入試・本校入試Ⅰ・本校入試Ⅱ、広島国際学院中入試Ⅰと入試Ⅱの重複志願者、山陽女学園会場入試志願者を延べで計算）。前年の出願者数6,995名と比較して205名増加し、前年比で102.9%、久しぶりの増加となりました。

ただし、全体としての志願者増には新設校の影響が大きく関わっています。3校の総志願者数は777名で、広島市から遠方の広島叡智学園中を除いても、402名の新たな志願者が生まれました。

### ●2019年新設校志願状況●

	志願者数	合格者数
広島国際学院中	249名	68名
ひろしま協創中	153名	77名
広島叡智学園中	375名	40名

### ●2019年と2018年の志願者数比較

学校名	2019	2018	増減	
広島学院中	644名	669名	▲25名	
修道中	902名	995名	▲93名	
ND清心中	546名	550名	▲4名	
広島女学院中	741名	752名	▲9名	
広大附属中	男子	604名	617名	▲13名
	女子	418名	474名	▲56名
広島なぎさ中	男子	301名	321名	▲20名
	女子	243名	206名	+37名
AICJ(会場+本校)	379名	218名	+161名	
修大ひろしま協創中	153名	56名	+97名	
広島国際学院中	249名		+249名	
広島城北中	567名	575名	▲8名	
崇徳中	195名	170名	+25名	
安田女子中	423名	651名	▲228名	
比治山女子中	145名	164名	▲19名	
山陽女学園中(全)	145名	92名	+53名	
市立広島中	545名	485名	+60名	
県立広島中	799名	905名	▲106名	
県立叡智学園中	375名		+375名	

広島市は古くから中予受験が盛んな土地柄です。前身が藩校で約300年の伝統を持つ修道中を筆頭に、創立100年を超える広島女学院中、国立大附属の広大附属中、さらに戦後派の学校でありながら着実に地域に根ざして多くの俊英を世に輩出してきた広島学院中とND清心中の5校が中心になりながら、その他多くの優れた私学が中高一貫教育を実践しています。

2019年度入試では、俗に「広島男女御三家」と称される広大附属中・広島学院中・修道中・広島女学院中の5校全てで志願者が減少、前年比200名もの大幅減となりました。新設の広島国際学院中と広島叡智学園中を除く既存の学校の募集状況を見ると、全体としては44名の微減となりました。学校ごとに明暗はあるものの広島の中学受験市場は決して好転していません。過去5年の「男女御三家」の志願者推移を見ても、5年前の約9割になり縮小傾向に歯止めがかかっていないことは明らかです。

●「男子御三家」志願者推移

	2019	2018	2017	2016	2015
広大附属中	604	617	594	652	625
広島学院中	644	669	698	672	718
修道中	902	995	1056	983	1001
計	2150	2281	2348	2307	2344

91.7%

●「女子御三家」志願者推移

	2019	2018	2017	2016	2015
広大附属中	418	474	459	497	490
ND清心中	546	550	553	547	588
広島女学院中	741	752	746	765	809
計	1705	1776	1758	1809	1887

90.4%

少子化と言われますが、広島市とその周辺地区の小6生の児童数はほとんど変わっていません。それでも年々志願者を減らしているのは、景況の影響や公立高校の台頭の結果とも考えられますが、実は、入試日程の設定にも要因があります。

■入試日程の設定で受験校の選択が変化

●入試日程

日	2019年度	←	日	2018年度
4	AICJ〈会場〉		4	AICJ〈会場〉
5	西大和〈会場〉		6	近大附東広島
9	愛光		7	愛光
12	近大附東広島		8	西大和〈会場〉
19	市立広島		13	市立広島
22	広大附属/AICJI /崇徳/安田/比治山I /協創I		16	広大附属
23	広島なぎさ/AICJII /国際学院I(特待)		17	広島なぎさ/崇徳/安田 I/比治山I/AICJ
24	広島女学院/広島城北 /比治山II		18	広島女学院/広島城北
25	ND清心/国際学院II (適性)		19	ND清心
26	修道/県立広島		20	修道/安田女子II
27	広島学院/広大附東雲 /協創II		21	広島学院
			27	県立広島
			28	広大附東雲

広島市の中学入試は、私学が入試解禁日を設定しますが、国立や公立の中学校は独自に日程を決定します。とはいえ、以前は「暗黙の了解」で、国私立の難関校がバッティングせず、併願校の志願動向に対する影響を最小限にとどめるように入試日を決めていました。ところが、2013年度入試から、広大附属中が試験日を前倒し、広島市で一番最初に入試を行うようになったことで、広島市の受験地図が一変。以来、上位校を中心に毎年のように入試日程が変更されています。

2019年度の私学の入試解禁日は1月22日(火)に設定されました。大学入試センター試験の日程が前年より一週間遅くなったことによる措置でしょう。

例年解禁日の前日や前々日に入試を行っていた最難関広大附属中が解禁日に参入しました。広大附属中は県立広島中や私学が日程を決めた後に入試日を決定するため、すでに日程を発表している私学にとっては日程重複は死活問題です。広大附属中と日程が重複した安田女子中は当初の日程のまま入試を断行。その結果、前年比で228名もの大幅減となりました。一方で、安田女子中と同様、解禁日に入試を予定していたAICJ中は急遽2回目の入試を翌23日に設定。この変更は正に英断で、広大附属中とバッティングした22日は54名、23日は110名となり志願者確保に成功しました。

●安田女子中志願者推移

2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013
423	651	695	655	698	732	733

※2018年まで入試Ⅰと入試Ⅱの2日程で実施

修道中と県立広島中は2011年から2016年までの6年間入試日程が重複していました。地理的条件からある程度すみ分けはできていましたが、2017年と2018年の2年間は別日程で併願することができ、受験生にとっては新たな選択肢が増えた格好です。しかし、2019年度入試では修道中の入試日程の繰り下げで、両校が再びバッティング。両校とも約100名の志願者減となりました。

●修道中・県立広島中志願者推移

	2019	2018	2017	2016	2015	2014
修道中	902	995	1056	983	1001	1053
県立広島中	799	905	924	793	923	682

同日

同日 同日 同日

前頁の日程表の通り、2019年度入試は1月22日から27日までの6日間に多くの学校の入試が集中し、前年より多くの日程重複が起きました。首都圏では午前入試だけでなく午後入試を含めて連日受験し、合格すれば受験を取りやめるというハードな受験が行われていますが、広島では午後入試や上位校の複数日程もありません。近年では多くの学校を受験するより、万全の状態での第一志望や第二志望を受験できるように、3日を超える連続受験は敬遠する傾向があります。2019年入試では、一週間足らずの間で数多くの学校の入試が集中したため、受験校を絞り込む動きがより強くなりました。

その一方で、広島市の入試解禁日に最難関の広大附属中の中入試があり、「附属を初日にしない」という観点から、例年以上に解禁日前に少しでも受験に慣れておこうと、何校か「前受け」受験をする流れが強くなりました。

●男子受験動向（英進館鯉城学院実績より）

入試日	5校以上	城北・なぎさ受験状況			受験率
1/4 AICJ会場	○△				86.4%
1/5 西大和					
1/9 愛光					
1/11 近大附					
1/19 市立広島	○				前年 (80.9%)
1/22 広大附属					
1/23 なぎさ	△	○	△	×	15.0%
1/24 広島城北	△	○	△	×	40.0%
1/26 修道	○				85.0%
	県立広島				
1/27 広島学院	○				
		附属東雲			
		16.2%	8.7%	47.5%	43.8%

\* %は男子塾生全体に対する受験率

●女子受験動向（英進館鯉城学院実績より）

入試日		受験率(出願率)		欠席率	6校～	5校	4校	～3校	
1/4	AICJ会場	94.7%	33.8%		28.4%	29.7%	28.4%	13.5%	
1/5	西大和								
1/9	愛光		17.6%						
1/11	近大附		前年	44.6%					
1/19	市立広島		(80.8%)	18.9%					
1/22	広大附属	○	71.6%						
	安田女子		24.3%						
1/23	なぎさ		21.6%						
	AICJⅡ		5.0%						
1/24	女学院	○	93.3%						
1/25	ND清心	○	85.3%						
1/26	県立広島		23.0%	42.1%					
	久留米附								
1/27	附属東雲		14.9%	73.1%					

\*受験率は女子塾生全体に対する比率 \*受験校数「～」は「以上、以下」

広島市の学校は解禁日前には受験できません。大半の受験生は東広島の近畿大学附属広島中やA I C J中の岩国会場での入試を選択しました。19日の広島市立広島中等教育学校（市立広島）は公立の一貫校のため科目試験ではなく適性検査ですが、日程上受けやすく、前年より志願者を増やしました。

腕に覚えのある受験生は四国の最難関校松山にある愛光中学や、広島市で会場入試を行う奈良県最難関共学校の西大和学園中学を受験しました。言わずもがなのことですが、19日、20日の灘中や19日、21日の神戸女学院中は予行演習の対象ではなく、全力を尽くしてたたかわなければならないチャレンジ校ですので、広島の入試前に受験するかどうかは、慎重に考えたいものです。

結果的に英進館鯉城学院での解禁日前の「前受け状況」は、男子が1.4校で全体の86.4%(前年80.9%)、女子が1.2校で全体の94.7%

(前年80.8%)にも及びました。解禁日以降の6日間は志望順位の高い学校を中心に3校前後の受験校を選び、解禁日前に学力や進学可能性に応じて1,2校受験するという受験生が多かったようです。

■受験校の絞り込みと多様化

2019年度は多くの学校の入試が短期間に固まってしまったことで、前受け校を増やしても総受験校は少なくなりました。

●出願校数・受験校数推移（英進館鯉城学院実績）

		2019	2018	2017	2016
男子	出願校数	4.88	5.57	5.55	5.42
	受験校数	4.72	5.17	5.20	5.04
女子	出願校数	4.75	5.20	4.92	5.04
	受験校数	4.40	4.28	4.30	4.46

安田女子中は前年まで専願の入試Ⅰと一般入試の入試Ⅱと日程を分けていましたが、2019年度は解禁日に一日だけで実施。ところが広大附属中の参入で受験生が受けたくても受けられない結果となりました。男子は広大附属中と修道中、広島学院中の中入試が近く、広島なぎさ中と広島城北中の受験を敬遠、どちらか一方だけか両校とも受験しないという受験生が増えました。

加えて、広大附属中・広大附属東雲中・市立広島中・県立広島中といった国公立校のみ受験する、特待制度のある学校を受験校に入れる、自宅に近い学校を併願校に加えるなど、日程のみならず、教育観や経済性、地理的条件までも含めた各家庭の価値観の多様化が出願校減少の遠因と思われます。

入試期間が短期化し、受験生が連続日程を回避したことで志願者が減少した私学も数多くありますが、その背景には保護者が受験する学校を厳しく選別し、「行かせたい学校」にしぼる傾向が出てきつつあります。「一貫校なら」、「私学なら」という時代は終わりを告げ、その厳しい選択眼によって、広島市の中学受験マーケットはゆるやかに縮小傾向が続いているのではないのでしょうか。

## ■広島県立全寮制中高一貫教育校「広島叡智学園中学校」募集開始

2019年4月に開校する広島叡智学園中学校は、全寮制でグローバルリーダーを養成することを目的とした国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）の導入校となる予定です。

公立校にはこれまでなかった画期的な教育プログラムを持つ学校として、県内はもちろん県外からも熱い注目を浴びました。定員は男女各20名の計40名。全寮制の学校にどれだけ応募するのか、女子は何人出願するのかと関心を集めていました。出願者数は男子175名、女子200名、計375名で女子の方が多く応募しました。内訳は、県内からの出願者が285名であるのに対し、県外から87名、海外3名で、県外からの出願者が予想以上に多くなりました。

11月24日に実施された第一次選抜で適性検査と面接が行われ、その結果100名の一次選抜合格者が選ばれました。さらに第二次選抜は12月25日～27日に二泊三日で共同生活を行い、グループワークなどを通して40名を選抜しました。

### ●広島叡智学園中学校選抜状況

入学定員	志願者数	倍率
40名 (男子20 女子20)	375名 (男子175 女子200)	9.38倍

### 志願内訳

県内	県外	海外
285	87	3

### ●選抜概要

一次合格者	二次合格者
100名	40名

### ●一次選抜〈面接〉(受験生からのヒアリング)

面接官2名に対し受験生5人グループ

- \*学校に入って頑張りたいこと
- \*自分が頑張ってきたことを経験を踏まえて具体的に述べる
- \*30秒の時間が与えられて、30秒で自己アピール
- \*寮生活について、自分の良いところを含めて考えを述べる

### ●二次選抜共同生活スケジュール

日	時間	内容
12/25 (火)	12:00	受付開始
	13:00	集合・注意
	13:30	オリエンテーション
	15:30	休憩・諸連絡
	18:00	夕食
	19:00	入浴
	21:15	健康観察・就寝
12/26 (水)	6:30	起床・身の回りの整理整頓
	7:40	朝食・諸連絡
	8:30	グループワーク1及び2
	12:30	昼食
	13:30	グループワーク3
	15:30	休憩・諸連絡
	18:00	夕食
	19:00	入浴
	21:15	健康観察・就寝
12/27 (木)	6:30	起床・身の回りの整理整頓
	7:40	朝食・シーツ返却
	8:10	諸連絡・共同生活の振り返り
	9:45	面接(面接が終わった人から順番に帰宅)

- 誕生日当てゲーム(20人のグループ、ジェスチャーで誕生日を伝え、誕生日順に並ぶ)+貨物列車(友人紹介ゲーム)
- レゴブロックで自分を表現+ボール渡しゲーム
- ディスカッション(テーマ「小学生はスマホを持つべきか」、賛成と反対各組でその理由を討論、後に賛成VS反対で討論)
- グループでストローとテープを使って1m以上のタワーを作り、そのタワーに500ml(中身入り)のペットボトルを吊り下げる
- 作文(合宿の振り返り)

## ■「広大附属中入試」を中心にして展開される広島市の中学入試！～併願設定・受験への影響■

### ■最難関校から始まる入試の影響

広大附属中は、ND清心中・広島学院中と並ぶ広島市最難関校の一つです。定員は120名(男女計)と少なく、特に女子では第一志望とする受験生が多いため、大変狭き門となっています。

2019年度入試では、広大附属中が私学解禁日の前日に入試を行い、7年連続で「最難関校から始まる」入試日程となりました。

広大附属中は、男子は4.1倍、女子は5.7倍(2019年度)もの競争率になる最難関です。当日の手応えが良くなければ気持ちも落ち込んでしまいがちです。また、問題が比較的易しく、当日のちょっとしたミスで不合格になることもあります。しかし、すぐ私学の難関校が続けて入試を行うため、そこから気持ちの切り替えができるか否かが私学の合否を左右する面もあります。

第一志望校合格を達成するためには、学力を伸ばすことが第一ですが、手応えや結果でブレることのない精神力も鍛えておくことが不可欠と言えます。

### ■高い競争率による狭き門

広大附属中は国立の男女共学校として人気を集め、年々入試難度が上がっています。大変厳しい選抜が行われ、「受験しても受からない」と判断して、公立と私立の一貫校にターゲットを絞ってもおかしくない状況ですが、1000名を超える志願者数は「どうしても受験したい」という受験生の熱い思いが表れた結果と言えます。2019年度は、外部一般志願者が男子13名、女子55名の計68名減少の減少となりましたが、女子の減少は安田女子中との日程重複が主因と思われます。志願者は減少しましたが、例年以上に成績上位者による激戦になったと言えるでしょう。

合格者数はその人気を背景に厳しくおさえられています。連絡入

学の志向の強い附属小学校からの合格者数に応じて、外部一般受験者の合格者を決めています。2019年度入試では、内部男子の合格者が前年より5名多く、外部一般は5名少なくなりました。一方で内部女子の合格者が前年より9名少なかったため、外部一般の女子は10名合格者が多くなりました。

附属小学校からの連絡入学には「下駄」をはかせ、外部一般の合格者と学力的に差があると言われた時代もありましたが、近年、外部一般生と内部附属生の差はなきに等しい状態です。2019年度入試における英進館鯉城学院の生徒の結果を見ても、内部附属生で合格した生徒は合格者全体の中～上位に位置しており、ほぼアドバンテージはないと言って良いでしょう。

### ●過去8年広大附属中志願者数推移

内 訳		2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012
一 般	男子	574	587	557	617	587	571	626	624
	女子	390	445	420	460	450	437	558	492
内 部	男子	30	30	37	35	38	39	37	39
	女子	28	29	39	37	40	36	38	36
計		1022	1091	1053	1149	1115	1083	1259	1191

### ●過去8年広大附属中合格者数推移

内 訳		2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012
一 般	男子	130	135	115	125	135	130	100	120
	女子	65	55	60	65	65	65	50	65
内 部	男子	19	14	19	18	17	20	21	21
	女子	8	17	14	14	20	15	25	13
計		222	221	208	222	237	230	196	219

2019 年度入試の問題も例年通りの出題でした。広大附属中の入試問題は難問やパターン問題を含む私学型の入試問題とは質が異なります。広島市の中学入試の「初日」、逸る気持ちや緊張を押し込み、問題文をていねいに読みこんで、その場で調べながら考え、あきらめることなく解答する姿勢で、加えて4教科ともミスなく得点できるバランスの取れた受験生でなければ広大附属中合格は難しいと言わざるを得ません。

### ■併願校の設定が合否のカギを握る

中学受験は子どもにとって生まれて初めての受験と言っていいでしょう。中学受験をするかどうかは多くの場合保護者が決定します。それが「自分の受験」となる時期は子どもによって異なり、入試直前まで、受験生という実感や危機感がもてないということも決してないわけではありません。しかし、さすがに受験が間近に迫れば大部分の子どもは「受かりたい」と願い、「落ちたらどうしよう」と不安になります。

第一志望校の受験を万全の体制で迎えるためにも、併願校の設定は重要です。2019 年度入試も最難関の広大附属中から入試が始まり、第一志望校の入試は特別な思いで臨みます。どれほど精神的に強くみえる子どもでも、緊張するし、のぼせ上がる。緊張が高じると、実力は出し切れません。だからこそ、少しでも「慣れる」ために、進学するしないに関わらず事前に受験を経験させた方がよいということになります。

2019 年度入試では2つのピークがありました。一つめの山は「広大附属前」、二つめの山が「広大附属後」です。

前述の通り、解禁日前の入試は市外や県外の学校しかありません。1 月 22 日の解禁日にある広大附属中入試を「初日」にしないために、年明けの 4 日～ 21 日、広島市内入試が本格的に始まる前の予行演習となる「前受け校」を選択することになります。進学をにら

んで受験する受験生もいますが、大部分は本命前の練習として受験するものです。解禁日の前に近大附属広島中東広島校や AICJ 中の岩国会場入試を、成績上位生は松山の愛光中等を受験しました。

二つめの山は 22 日の広大附属中を終えた後、息つく間もなく行われる 23 日～ 27 日の 5 日間にある広島女学院中、ND 清心中、修道中、広島学院中を中心とした私立校と 26 日の県立広島中、27 日の広大附属東雲中の中入試です。前年までは私立と県立広島中・広大附属東雲中は約一週間離れていたため併願しやすかったのですが、今年は試験日が重なっており、受験校を選択しなければなりません。学力や家庭の教育観に応じて受験校を選ぶこととなります。

解禁日から 2 日後 24 日は広大附属中の合格発表があります。この結果を受けて私立上位校や県立広島中を受験します。狭い門とは言え、不合格になれば意気消沈しますし、合格すれば気のゆるみも生じる恐れがあります。

### ●2019年度主要校入試日 & 合格発表

	入試日	合格発表日
1月22日	広大附属中	
1月23日	広島なぎさ中	
1月24日	広島女学院中 広島城北中	広大附属中
1月25日	ND清心中	広島女学院中 広島城北中 広島なぎさ中
1月26日	修道中 県立広島中	ND清心中
1月27日	広島学院中 広大附属東雲中	修道中
1月28日		広島学院中

2019年度入試では、24日に広大附属中に合格した受験生の中で、25日のND清心中、26日の修道中、県立広島中、27日の広島学院中の受験を取りやめるケースが例年以上に多く見られました。広大附属中が第一志望で受験を終了した人もいますし、日程の詰まった受験の中で第一志望である広島学院中受験に備え、修道中の受験を敬遠して英気を養った人もいました。

### ●志願者・受験者比較

	2019年			2018年		
	志願者数	受験者数	差	志願者数	受験者数	差
広島学院中	644名	623名	21	669名	660名	9
修道中	902名	868名	34	995名	970名	25
ND清心中	546名	527名	19	550名	536名	14
県立広島中	799名	755名	44	905名	820名	85

補欠の追加合格があるのだから全部受験して欲しいと考える塾の意向をよそに、厳しい入試日程の中で、志望順位に合わせて無理のない受験をするという傾向も出てきたのかも知れません。

### ■追加合格、繰り上がり

各校定員を充足させるため、追加合格候補、いわゆる補欠を出します。入学手続き書類を取りに来る合格者の数によって、発表直後から繰り上げが始まり、併願校の合格発表と入学手続きに応じてその後も繰り上げは続きます。当然のことながら、追加合格の人数は決まっておらず、年によって大きく異なります。従って、繰り上がりを持つ受験生や保護者は結果が判明するまで「宙ぶらりんの状態」に苦しみます。

たとえば、広大附属中受験者の中には、26日の県立広島中や修道中、27日の広島学院中を併願する生徒がいます。また、三原以東の県東部地区からの受験生は1月31日の広大附属福山中を第一志望としている受験生が多数います。入学者数は今後6年間の学校運営を大きく左右するため、定員いっぱいにとりたいというのが学

校サイドの思いです。その結果、入学定員に欠員が出るたびに追加合格を出すこととなりますが、A校に逃げればB校が、B校に逃げればC校が、というように、追加合格の連鎖、「追加合格ドミノ」が起こります。広大附属中の発表で補欠となった受験生の繰り上がり動向が決定するのは、女子であれば、県立広島中、さらには広大附属福山中の合格発表、そして各校の手続き完了日まで、男子の場合も、広島学院中、修道中、県立広島中、そして広大附属福山中の合格発表と入学手続き数次第となります。その途中、合格者の重複する他校でも追加合格が行われるのが通例です。

広大附属中は多くの補欠は出すものの繰り上がらないことの多い学校です。昨年は、繰り上げの動きが大変遅く、最終繰り上げ(英進館鯉城学院の場合)は2月14日、男子のみ若干名の繰り上げにとどまった模様です。2019年は、男女とも繰り上げは行われず、補欠者は皆涙を呑んだ模様です。

広島学院中の追加合格の連絡は29日の指定時間に行われましたが、今年もほんの少数にとどまり、多くの候補者が悔し涙に暮れました。修道中は109名の補欠を発表しました。補欠者には成績により3段階に分けた順位がつきます。2019年度入試では、「補欠1位～33位段階」、「補欠39位～72位段階」、「補欠76位～109位段階」の3段階に分けられました。近年、修道中は人気うなぎ登りで、広島学院中や広大附属中に合格しても修道中へ進学する受験生が増えています。そのため、今年も合格者の手続き率が上がり、最終的には第1段階の一部までのわずかな繰り上げにとどまった模様です。広島女学院中やND清心中も合格発表直後にわずかな繰り上げが行われたようですが、一部にとどまっているようです。

2019年度は「補欠止まり」で涙を呑んだ受験生が多く、1点、1問の重みを痛感する厳しい入試だったと言えるでしょう。各校の歩留まりが良かったということになりますが、受験生サイドの志望校の絞り込みや志望校合格による他校受験回避で受験生が絞込まれたこともあるでしょう。



市立広島中や県立広島中は定員ちょうどしか合格者を出しませんし、追加合格候補の案内もありません。欠員が出るたびに追加合格の知らせが入ります。正確な数はわかりませんが、現状では例年同様の追加合格が出ているようです。市立広島中や県立広島中といった公立一貫校人気は確かですが、私学との「すみ分け」も進んでいるように思われます。

### ■「受験生ファースト」の中学入試が学校にもプラスに

少子化、景況の低迷、公立校の台頭などで、広島の中予入試は縮小の一途をたどっています。それでも中学受験を選択した子どもたちにとって今の入試は決して受けやすいとは言えません。

第一に、入試日程再考を切に望みます。広島市のように学年で1700名程度の受験規模の小さな地域では、入試日程の組み方ひとつが大きな影響を及ぼします。2019年、広大附属中が私学の解禁日に入り、最難関校から広島市の入試は始まります。また男女ともに私学の入試日程がつまり、受験生にとって連続日程になりやすい厳しい入試となったことは前述の通りです。これは学校側にとってもマイナスで、いくつかの学校で志願者を減らす主因になっているのは明白です。

入試を「受験生ファースト」、いや、せめて「受験生フレンドリー」に考えることはできないのでしょうか。解禁日にしぼられず、受験生にとって戦いやすい、実力を発揮しやすい学校から受験し、徐々に難しい学校にチャレンジできるゆとりのある日程を設定すれば、受験生も増え、学校にとってプラスになるはずで

す。地方都市としては珍しく中学受験の盛んな土地である広島の教育を悪しき均質化の道を歩ませないためにも、中学受験の活性化は不可欠です。国公立がその枠を超えて意見を交換し、もっと広い視野で広島の中学入試を再検討する時期に来ているのではないのでしょうか。

### ■中学受験を牽引する私学の魅力

私学には国公立校にはない建学の精神と独自の教育方針があり、わが子の成長にとって大きな意味を持つ中高6カ年を優れた私学で、と願う保護者の方は根強くいます。

今、そうした保護者の思いをしっかりと受け止めて、より良い学校づくりをすすめようという機運が広島の私学で高まっています。

次の文章は、入試解禁日を目前に控えた1月11日に修道中学校の田原校長先生が受験生にあてたものと、12月13日広島女学院中学校の渡辺校長先生からのことばです。受験生のそばに寄り添い、不安になりがちな12歳の小さな心に火をともし、これこそ私学ならではのメッセージです。

修道中 HP 2019/01/11 [受験生の方へのお知らせ]より

はじめまして。私は、修道中学校の校長の田原です。  
日々努力している小学生の君に応援メッセージを送ります。

人が目標に向かって懸命に努力できるのは、目指している「目標」がとても大切で価値のあるものだからです。少しでも「目標」そのものを疑う気持ちが出てきたら、人はがんばることができません。君が入試の日までがんばり続けられるように、今一度、君の「目標」である「私立中学校に進学すること」の大切さをここで確認しましょう。

先日のテレビニュースで、今年、東京などの関東地方では私立中学の受験がヒートアップしていることが報道されていました。その報道の中で、今年、私立中学が注目されている背景には「2024年問題」があると解説されていたのです。

今年中学を受験する現在の小学6年生が高校3生になって大学受験をする年が2024年です。では、なぜその年が問題なのか。

実は、この年から大学入試制度が大きく変化するからです。これが「2024年問題」と言われていることです。

今の受験のように、テストで1つの正解を問われる形式から、答えが1つではない問題によって、思考力や創造力など多角的な新しい「学力」が試されることとなります。

このような新しい「学力」は訓練すればすぐに身につくというものではありません。

良い環境の中で多くの経験を積み、時間をかけてゆっくりと自然に身についていくものです。適切な「環境と時間」が必要なのです。

私立中学の教育には、その適切な「環境と時間」が確保されているという事実が、東京での中学受験の過熱という社会現象によって証明されているのではないのでしょうか。

「2024年問題」をとりあげましたが、修道を含めた私立中学校は、新しい「学力」を大学進学のためだけに必要なものであるとは考えていません。君が未来をたくましく生きていくための「力」だと考えて教育をしています。

私は自信を持って君に伝えます。

君の「目標」はとても大切で価値のあるものです。

だから努力は間違いなく継続できます。がんばってください。

さあ、このウェブページを閉じて、ラストスパートです!!

修道中学校 校長 田原俊典 中学

※下線は当館による

広島女学院中 HP 2018/12/13

[広島女学院中学校を受験される皆さんへ]より

受験生の皆さん、いよいよ受験出願が始まりました。これまでの時間を、たくさんの努力をし、今日の日を迎えていると思います。その努力を心から尊く思います。また、そうだからこそ、最後までしっかりと受験に取り組んでほしいです。

中学生になると、勉強の内容はさらに楽しくなります。そして、将来につながる色々なことに挑戦していきます。放課後の部活動はとても充実しています。広島女学院中学校では、グローバル化・情報化の進む社会に対応するために授業や放課後の活動を、生徒自身がもっと主役になり取り組んでいけるように変えていきます。また、心の成長も大切ですね。毎朝の礼拝で、讃美歌を歌い、祈ります。自分のことだけでなく、周りの人を思いスタートする一日を重ねていきます。

その中学校で成長していく力を身につけるために、今の一日があります。小学校での学び、友人との交わり、塾や家での勉強、そして周りで支えてくださる方との時間、どれをとってもとても大切なものです。その一つ一つを喜び感謝して過ごしてほしいです。そして受験までの日々が、皆さん一人一人にとって納得のいくものになることを祈ります。

寒い日が続きます。健康に気をつけてください。入学試験の日にお会いできることを心よりお待ちしております。広島女学院中学校の生徒・教職員全員で、皆さんを応援しています。

広島女学院中学校 校長 渡辺信一

※下線は当館による